

『真理』で関わる家庭を築く

神 示

なぜ 神は 使者を通し 「真理」を世社会に示すのか

なぜ 信者は その「真理」を学び

家族と「心」で触れ合うことが必要なのか

二つの問いに返答できる人存在であれ

社会に生きる人人々の姿を見てごらん

人生の支えが見えずに

知識と経験を頼り 努力で生きようとする

なれど ますます人生に夢が持てずに 心不安に迷う

「真理」に 人生の支え 気付きをを得て

家族と正しく関わるなれば

人人間は必ず

人生の夢 「生きる」意味価値が見えてくる

夫婦の心は一つに重なり 家族の心は一つにまとまり

「心の道」に良き因を残してゆく

実体は ますます引き上げられて

家族の心運命が家族の人生を「正道」へと導く

今の社会今日に欠けるもの――

魂安らぐ家庭を築く心愛情と申す

信者は 「教え」に悟りを深め

真実の愛を家族と共に育むべし

時代の流れ運命に乗って

喜び多く 生きがいあふれた日々にちにちを歩む姿が

ここにある

なぜ神は、教え、真理を世に表されるのか、なぜ教えを軸に家族と関わる必要があるのか、そこをつかまなくてはいけないと、神は呼び掛けられています。教えを心の動きに反映できれば、気持ち安定し、家内に波風など立たず、平和が保たれます。そのような家庭があつてこそ、各自の良さが生きるのです。

神が真理を世に示されるのは、今を生きる人々に迷いが多いからです。神は、使者を通して神示を表されます。神の実在を示すために神示があつた供丸齋先生の時代。真実を明かし、希望の光みちを開くために神示があつた供丸姫先生の時代。そして今は、供丸光先生を使者として、希望の光みちを通し、開運するために必要な生き方、真理の数々が示されています。

教えを学び、実践する基本は、家庭にあります。仕合せの六つの花びらの冒頭である夫婦、親子が和合し、魂が安らぐ家庭があつて、運命が磨かれるのです。

現代は、人生の支えとすべきものが何か分からず、知識と経験を頼り、努力でどうにかしようとしがちです。しかし、それでは欲に流され、自身に見合う夢が持てず、不安に迷うことになります。教えを心に据えて家族と正しく関われば、互いに支え合い、補い合い、信頼し合つて生きていきます。自分自身の生きる意味も見えてきます。喜び、悲しみ全てを分かち合える家族となり、心が重なり、心の道に良い因を残していきます。

その家に良い考え方が根付き、実体が引き上げられて、家族それぞれの人生が正道へと導かれていきます。正道とは、神、仏、人の道に沿った生き方であり、運命に重なる人生です。

今の社会に欠けているのは、家族一人一人の心が安らぐ家庭にしようとする愛情です。ですから、家族で教えを学び、真実の愛を育む努力が必要です。

なぜ教えが世に示されているのか、なぜ真理に沿って家族と触れなくてはいけないのか、その答えがここにあります。家族で教えを身に付ければ、家の中で生きる力が湧いてくるからです。

『真理』で関わる家庭を築く

神 示

人間の正体は「魂」

誕生とともに運命の「力」となって

「人生」を守っている

なれど 運命の「力」を引き出せず

「人生」に悩み 迷う人が多い

「真理」で家族と関わることを欠き

実体に「心」のまれ 生きています

信者に申す

「教え」を家族で学び 「真理」で関わる家庭を築くべし

「教え」が家族の心に気付きを与え

「実体」は修正される

自然と 家族を思う心感謝心が芽吹き

病気 事故・災いが消えてゆく

人間には 運命を磨き 活力を引き出すために

和のある家庭が必要

「教え」に生きる家庭には

必ず六つの花びらが咲き誇り 栄えてゆく

時代の力運命が大きく動いている今今日こそ

「教え」に生きて 心安らぐ家庭を築く時時代

—— 神の手の中

万物 万人の命運命が生かされ 巡る社会の姿真実——

この真実が体験できるまで

「教え」を学び 日々「生きる」信者を目指す

欲心よくしんのとりわれから解放されて

精神世界に「生きる」 真実の喜びを体験できる

いかに生き方が多様化しても、人は誰もが父母の下に生まれます。人間の正体は魂であり、誕生と同時に宿された魂が運命となって、人生を導いていきます。運命とは、社会に役立つ力であり、人生を守る宝とも言えるものです。

しかし、運命の力を引き出せず、人生に迷う人が数知れません。それは、実体の悪い面が表れるからです。実体とは、家系が受け継ぐ気質、体質、性格です。家族と正しく関われないと、実体にのまれ、さらに生き方を下げてしまいます。

そこに必要なのが、神の教えです。家族で教えを学び、正しく関われる家庭を築いていくのです。教えが心に根付いたなら、実体が修正されます。家族を思う心、感謝の思いが深まって、体調を崩したり、災難に遭ったりすることもなくなります。

一人一人に与えられた運命を磨き、生きる力、活力を引き出すには、どうしても和のある家庭が必要です。夫婦、親子の仲が良く、和の保たれた環境に身を置けば、心が安定して、持っている運命から生きる力が湧いてきます。

そのような家庭からは、子供が立派に育ち、自立した社会人となって、新たな家庭を持つても、良いものを確実に受け継いでいきます。教えに生きる家庭は、代を超えて連綿と栄えていくのです。

今は、時代の運命が動いて、社会が大きく変わりつつあります。それは、家庭も同じです。社会においても、家庭の在り方が見直され始めています。今こそ、家族が正しく関わり、正道へ戻し、心が安らぐ家庭を築くことが大切です。

この世に存在する万物、万人が、神の手の中で生かされ、絡み合って回っています。それが、社会の真実です。

それぞれに必要なとされた意味がある以上、分、器、身の程をわきまえて、教えを基に生き方を正していきましょう。すると、身の丈を超えた欲心から解放されて、できることで精いっぱい尽くす思いになるはずです。周りから感謝され、精神世界に生きる喜びが味わえるのです。